病　院　だより　　2016年8月号　第345号

発　行　昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者　昭和大学病院長　板 橋　家頭夫
編集責任者　広 報 委 員 長　中 村　清　吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
ＴＥＬ：03-3784-8000（代表）

昭和大学病院　検索

昭和大学病院附属東病院　検索

病院広報委員会委員長からのご挨拶

昭和大学病院　乳腺外科　教授　中村　清吾

本年 5 月より、河村満昭和大学東病院長の後任として、広報委員長を拝命いたしました。

折しも、小児科の板橋家頭夫教授が 4 月から昭和大学病院長に就任され、各部署、各委員会の活動目標を立てるようにという指示が出されておりました。私自身は、本委員会には、初めての参加で、右も左もわからない状況でしたが、だれを対象にどのような目的で発刊されたものかを、素朴な疑問としてお聞きするよい機会が得られました。もちろん毎月発刊される病院の広報誌ですから、病院で起こった様々な出来事や近々予定されている活動などの情報をお知らせするのが使命でありますが、その対象は、職員？患者さん？連携先の医療機関？と問うてみると、様々な答えが返ってくると同時に、対象を意識したコンテンツの整理がやや不十分ではないかとの印象を受けました。現在、この病院だよりは、各部署の責任者のほか、約 1700 ある連携医療機関に毎月配布されています。また、昭和大学病院ホームページから、だれもが自由に閲覧することが可能です。思い起こせば、6 年前に本学に赴任する前、病院では、どのようなことが話題となり、また、診療以外にどのようなことが行われているのかを知る大切な情報源でありました。

本誌の目的としては病院が目指していることを、まず病院職員に浸透させ、またその実現のために行っていることを院内外に周知するということになるかと思います。

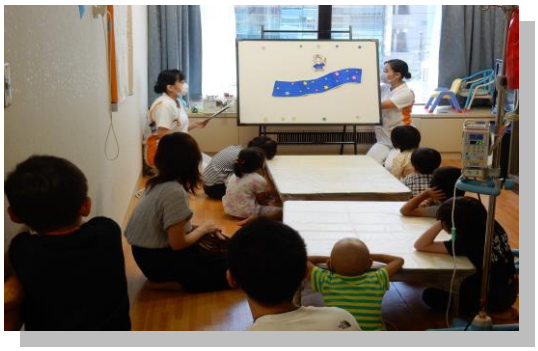
本誌は、昭和 61 年 5 月に創刊され、約 30 年余りの歳月が経ちました。新約聖書に「新しい酒は、新しい皮袋に盛れ」という故事があります。よき伝統は残しつつ、形骸化した内容は刷新し、昭和大学病院の目指すところを的確にお伝えできる紙面に変えていきたいと思います。本誌に対するご意見ご要望があれば、ぜひお聞かせください。

委員の構成は、医師のみならず、チーム医療を担う各職種からの代表者で成り立っています。今後もチームワークを大切に、本誌の編纂に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

小児医療センター七夕会

昭和大学病院の小児医療センターでは、毎年いろいろなイベントを開催しています。７月は七夕会を開催しました。今年は７月７日(木)に開催され、参加した子供たちは、七夕にまつわる紙芝居を聴いたりするなどして過ごしました。

スタッフ、子どもたちも終始笑顔で楽しく過ごしました。



小児医療センター七夕会の様子

文責：管理課

七夕ライトダウン実施報告　～ライトダウンする夜は、みんなが地球を想う夜。～

７月７日(木)の七夕に、昭和大学病院と附属東病院で「七夕ライトダウン」を行いました。当日は、20：00～21：00 の間、可能な限り電気の消費量を減らす取り組みを実施しました。この活動は、地球温暖化防止にもつながり、未来の環境をも守ります。

微力ながら、七夕ライトダウンをきっかけに意識的に CO_2 削減に努めることができましたが、今後、より一層、昭和大学病院と附属東病院では地球温暖化防止対策に貢献していきたいと考えています。

「七夕ライトダウン」にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

文責：管理課

防災訓練　～部署別ブロック訓練の様子～

部署別ブロック訓練の様子

平成 24 年度から取り組んでいる部署別ブロック訓練も今年度で５ 年目となります。昭和大学病院として災害(防火)対策委員会、災害(防火)対策実務者委員会で毎年想定や訓練内容の検討を行っております。委員会で作成した基本シナリオをもとに各部署が訓練用にアレンジし、初動対応を重視し訓練を行っています。一昨年からは年間２回と訓練を増やし、災害への備えを行っています。本年度は５年目ということで、時間外でライフラインはほぼ使用不可という状況を想定した大変難易度が高い訓練となりました。今後も外部との連携や消火訓練等の充実を図り、災害対策に取り組んでいきたいと考えております。

文責：管理課

ブラックジャックセミナーの開催報告

７月２３日（土）昭和大学旗の台キャンパス１６号館にて、ブラックジャックセミナーを開催いたしました。

実体験を通じて医師の仕事をより良く理解してもらうことで、医療への関心を高め、将来の進路を決める際の一助となることを目的に取り組みを始め、今年で６回目となります。

品川区内を中心とした小・中学生３１名が参加しました。

村上診療科長による説明の後、実際の術衣を着用する体験を行いました。

その後、およそ２時間かけて５つの模擬体験を行いました。

①内視鏡外科手術用鉗子(かんし)操作体験

②手術針、糸を使った縫合、結紮(けっさつ)体験

③自動縫合器・吻合器体験

④超音波凝固切開メス体験

⑤手術シミュレーター体験

医師によるマンツーマン指導です。

全員が無事修了証を授与されました。

全員集合写真
（前列：青木准教授、村上教授、大塚医局長）

＜担当医師のコメント＞

今年で６年目となりました。開始前の講義では、病院とはどんな所か、消化器外科医とはどんな仕事か、チーム医療を中心に説明し、がんとはどんな病気かについて解説しました。

模擬体験実習では、参加者はみな真剣で、あっという間の ２ 時間半でした。昨年より、参加者には、消化器外科医が病院で使用している黒の特注のスクラブを名前入りで差し上げていますが、早速試着し写真撮影をしていました。（診療科長：村上雅彦）

文責：管理課

病院を支える部署 Vol.4

医療連携室　磯飛　雄一

このコーナーでは、院内のさまざまな部署の業務内容や、そこで働く人たちを紹介しています。

Q. どんなことをしている部署ですか？

私達は地域の医療機関、病院との連携をサポートしています

医療連携室は、地域の医療機関と病院間の橋渡しのお手伝いをさせていただいており、地域医療連携を効率よく行うための重要な役割を担っています。

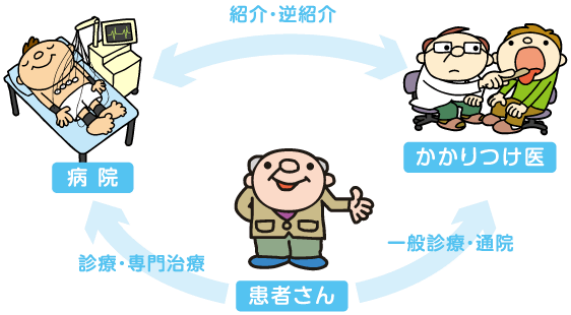
主な業務内容は、「患者さんの紹介・検査・転院予約調整」、「紹介元医療機関へ結果報告・情報提供と管理」、「地域医療機関等との連絡調整」、「地域医療連携に関するデータ管理」、「セカンドオピニオン外来予約」、「渉外業務」、「広報活動」、「連携先の開拓」などを行っています。

その他、お困りのことなどありましたら、ご連絡ください。

Q. 地域医療連携って何ですか？

地域医療連携とは、地域の医療機関（かかりつけ医）と基幹となる病院が、医療機能の分担と役割を分け、医療機関同士が相互に円滑な連携を図り、その有する機能を有効活用することにより、患者さんが地域で継続性のある適切な医療を受けられるようにするものです。

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院では、地域の医療機関、病院と紹介・逆紹介を通じて密接な連携のもと、地域の患者さんに必要な医療を継続して提供するために地域医療連携を推進しています。



Q. 医療連携室から近隣医療機関の先生方へメッセージをお願いします。

逆紹介を推進していきます！

医療連携室は、ご紹介をいただく近隣医療機関の最初の窓口となり、病院の「顔」となります。また、先生方の大切な患者さんを当院にご紹介していただいているため、適時患者さんの経過報告書の送付、治療終了後の逆紹介をするように、病院内の環境作りも進めていきます。

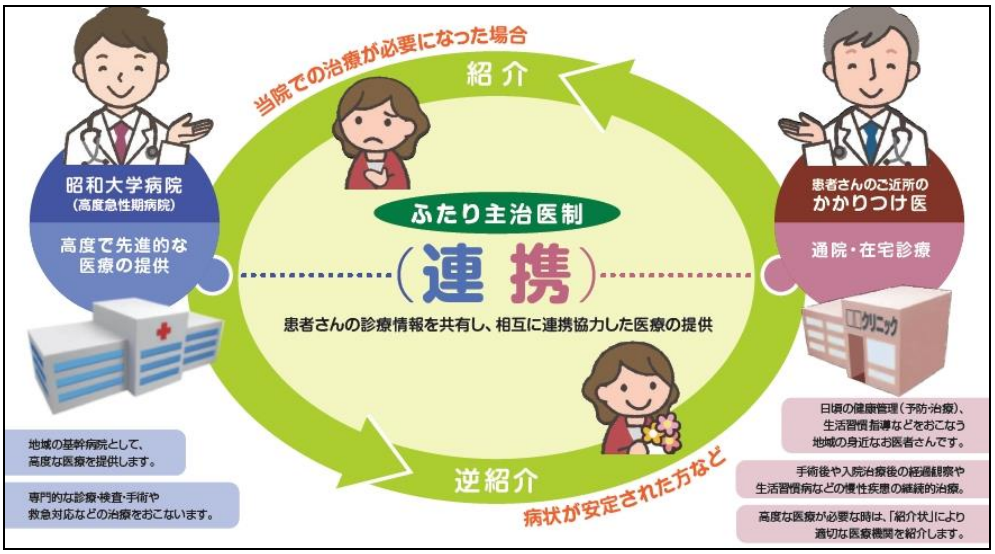
地域医療連携をはじめとする病診連携は、ますます重要な業務となってきていますので、先生方から十分な評価をいただけるよう日々努力してまいります。これからもご指導・ご支援を宜しくお願いいたします。

「ふたり主治医制」推進について

かかりつけ医を持ってもらうために、『ふたり主治医制』のパンフレットを配布しています。

患者さん一人に対し、「病院医師」と「地域のかかりつけ医」と主治医を二人持ってもらい、病院と地域の医療機関と互いに連携しながら共同で継続的に治療を行います。患者さんは、普段は「地域のかかりつけ医」に疾患の継続診療や健康管理等について相談していただき、そのうえで入院や専門の治療及び精密検査が必要とされた場合は、かかりつけ医の紹介状を持って病院に受診していただきます。

このように『ふたり主治医制』は、主治医同士の情報共有、連携により、どちらに受診しても適切な治療を受けることを目的としていますので、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。



～質問 1～

Q. 私は昭和大学病院の先生が「かかりつけ医」なので、地域のかかりつけ医がいないのですが？

A. 基本的に病院医師が大学病院での継続的な治療が必要ないと診断された患者さんは、地域の医療機関にご紹介させていただいています。ですがご安心ください、医師が治療経過を記載したお手紙を書いてくれます。また、患者さんのご自宅に近い、連携医療機関の先生方を、医療連携室が責任を持ってご案内いたします。

～質問 2～

Q. なんで紹介状が必要なの？わざわざ、かかりつけ医から貰うことが手間です！

A. 大学病院では「救急車(救急患者)対応」、「手術・精密検査」、「入院患者さんの治療」、「臨床研修医への教育」、「医学的研究」などを行っています。しかし、風邪･腹痛･捻挫など、よく身近にかかる病気で大学病院を受診されますと、医師達が大学病院で行うべき高度急性期の医療に注力できない環境になってしまいます。
まずは、かかりつけ医へ受診してもらい、大学病院での治療が必要となれば紹介状を書いてもらって、大学病院の受診となります。患者さんのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

院内コンサート報告

６月 24 日（金）15 時から、東病院３階ディルームに於いて、第 18 回東病院院内コンサートを開催いたしました。横浜国立大学ギター部のＯＢで結成された「ギタラス・デ・オロ」は、昨年 10 月の好評に応えて２回目の登場となります。メンバーのお一人、小山信明さんは長年コンサートのお手伝いをしてくださっている小山百代さんのご主人です。ご主人の詳細な進行表により、奥さまの司会に、素晴らしいソプラノも加わって、楽しい３０分を演出して下さいました。

奏者：「ギタラス・デ・オロ」
　　ギター：山中秀康さん、山口一雄さん、池畑久之さん、小山信明さん、福村睦さん
司会と歌　：小山百代さん、落合彰子さん、菊敏江さん

演目：ギター独奏／アルハンブラの思い出
　　二重奏／夢見る人　太陽がいっぱい
　　三重奏／北の旅人　エルチョクロ
　　弾き語り／少年時代
　　◎いっしょに歌いましょう　　夏の思い出　浜辺の歌

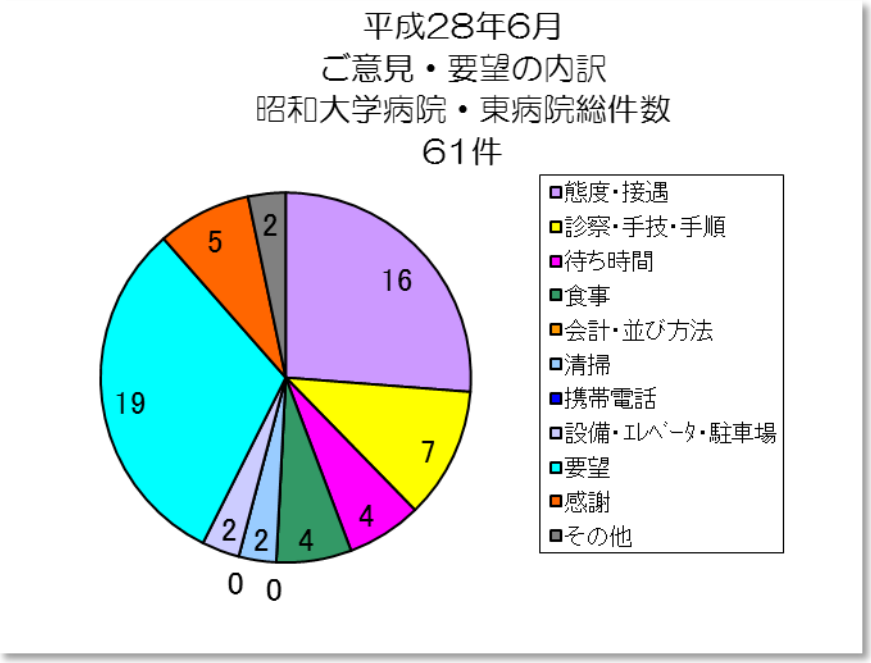
参加者：31 名
催事係員：職員 10 名

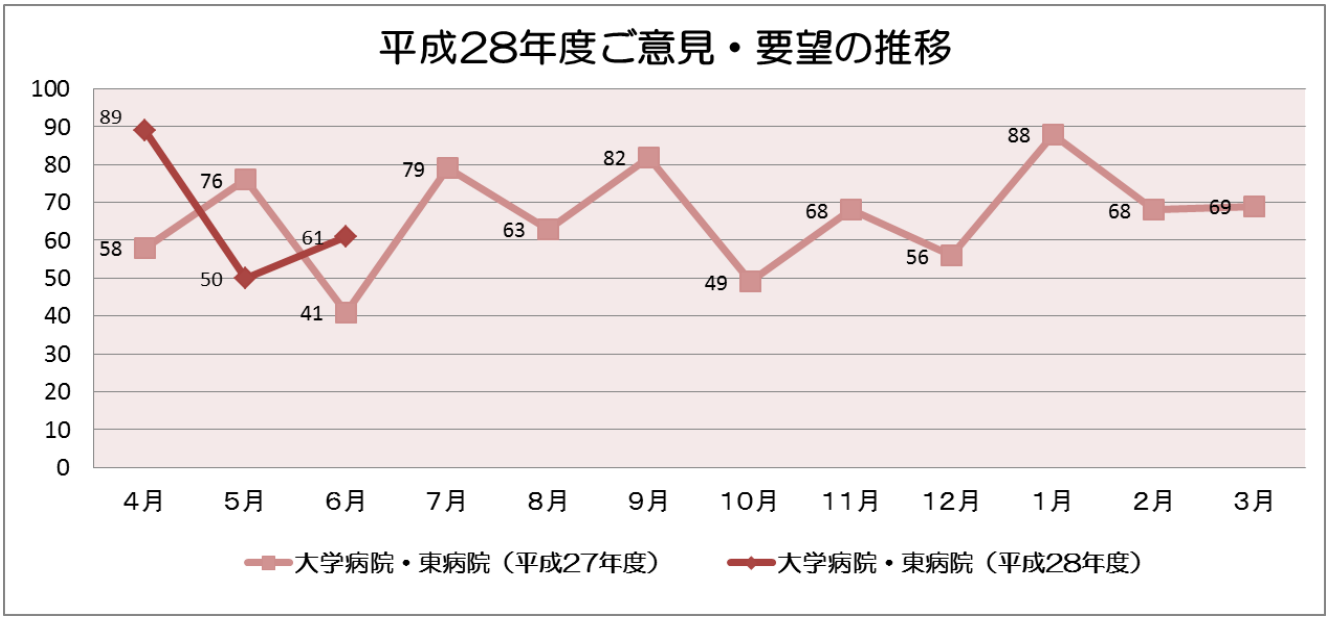
＜参加された方の声＞
- とても楽しい時間でした。ベッドから起き上がるときからワクワクしていました。
- 好きな曲が聞けて、脳が活性化されました。ありがとうございました。
- 前回も良かったのでまた来ました。いつも楽しい時間をありがとうございます。
- タンゴはいいですね。「裕次郎」の声が良かった。ファンになりそう。
- ナイスミドルのお姉さんや、お兄さんたち、とっても素敵でした。このおばさんを、ひととき若い頃に戻してくれました。今晩は楽しい夢を見て眠れそう。
- お見舞いで来て偶然聞くことができました。有難うございます。　大変良かったです。またの機会を楽しみにしています。

コンサートの様子

患者さんのご意見･要望

ご意見・要望	回　答	回答部署
会計の事務の方がテキパキしていて、感じもよく、若いのに素晴らしいと思いました。	この度は、お褒めの言葉をいただきありがとうございます。このようなお言葉をいただき、私ども一同大変うれしく、今後の励みに繋がります。	医事課





各種お知らせ

・医療安全・感染対策講習会

日　時：平成２８年９月１４日（水）【２部制】17：15～18：15、18：25～19：25

場　所：上條講堂

テーマ：医薬品の安全管理/感染対策

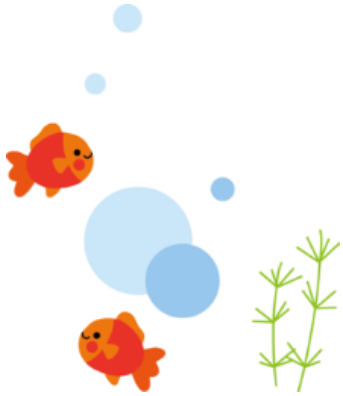
・第７５回院内コンサート

日　時：平成２８年８月26日（金）15：00～

場　所：東病院 3F ディルーム

内　容：弦楽四重奏

演　目：未定(クラシック・唱歌など)



編集後記

今年より８月 11 日は「山の日」と国民の祝日として制定されました。山の日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」だそうです。国民の祝日は建国記念の日や昭和の日、みどりの日など「山の日」を含めて 16 日間となりましたが、そもそも国民の祝日の意味を深く考えたことがないように思います。今年から祝日が多くなったことで、「山の日」を単に過ごすだけではなく、その国民の休日の意味を思い出し、考え、過ごしてみようと思います。

医療推進課　磯飛　雄一

昭和大学病院･附属東病院の理念

・患者さん本位の医療
・高度医療の推進
・医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

・患者さんが受診しやすい、患者さんのＱＯＬを重視した、質の高い医療を提供する。
・地域医療機関との連携を推進し、特定機能病院としての医療を担う。
・教育病院としての機能を充実して卒前・卒後の研修・実習および生涯教育を通して、質の高い医療人の育成を行う。
・生命倫理を尊び、科学的根拠に基づいた高度な臨床研究を実施する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員：荒川 千春、磯飛 雄一、大嶽 浩司、河村 満、佐藤 久弥、鈴木 隆、田中 克巳、中村 清吾、早川 友賀、平野 勉、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50 音順）